

# 米イージス艦入港承認の撤回を 酒田港を軍港にするな!



【写真上】県へ申し入れる人たちとゆり子県議（左から3人目）  
3日、県庁  
【写真下】酒田北港へ入港するカーティス・ウィルバー号  
7日午前8時半過ぎ、酒田北港

3日、日本共産党山形県委員会と県議団は、米イージス艦「カーティス・ウィルバー」号の酒田北港入港（7日から10日まで）についての承認を撤回するよう、

吉村美栄子知事に申し入れました。  
原水爆禁止山形県協議会、新婦人県本部、県母親連絡会、県平和委員会、県革新懇、県商工団体連合会も申し

入れを行いました。  
内容は、イージス艦は核を搭載できるよう装備された危険な軍艦であること、2005年にもフリゲート艦が入港しており、酒田港の米軍艦利用を恒常化させることに道を開く

と指摘し、広島・長崎原爆投下の日前後に入港することは、核廃絶や憲法9条への県民の思いに反するとして、入港承認の撤回を求めました。

申し入れ書を受け取った会田稔夫・危機管理監は、「日米地位協定、山形県港湾管理条例によって許可したもので、撤回はできない」と述べました。

各団体からは、県がなぜ承認したのか疑問の声や、滞在中の米軍の事故や事件に対する不安も出されました。さらに、県として県民の生命と平和を守る

立場に立ち非核証明書提出を求めるよう、要請したのに対し、会田危機管理監は「期間中の事故などには、酒田市や庄内総合支庁、海上保安庁、警察など連携して対処する」「カーティス・ウィルバー号は横須賀を母港としており、すでに非核化は問題ないと考える」と述べました。

最近の報道で、日本への核兵器持ち込みを認めた日米核密約の存在が、歴代の外務次官の証言などであらためて注目されています。すでに2000年に、

共産党県委員会と県議団が県へ申し入れ



2009年8月16日 第74号

発行  
日本共産党県議会議員  
渡辺 ゆり子  
〈連絡先〉  
日本共産党県議団執務室  
電話 023-630-3241  
自宅:山形市青田2-10-5  
電話 023-642-2365

## 総選挙勝利へ全力

### どこでも自公政権への怒り

7・8月は例年、夏祭りや行事などで地方議員は多くの方と接しますが、今年には総選挙が入り、その話題があちこちで聞かれます。

街頭演説や大小の集会で様々な反応があり、佐藤まさゆき衆院比



街頭から訴える小池政策委員長(中央)と高橋衆院比例候補(右端)、佐藤衆院比例候補(左端)=11日、山形市七日町

例候補(1区重複)と街頭演説に立っていても、これまでになく「ガンバレ、応援するから」と熱烈なエールを送る人や、外仕事や農作業の人がわざわざ寄ってきたり、「しっかりしている共産党が頼り。これまでも世話になっ

た」など声をかけられます。共通しているのは、国民犠牲や負担増に対する怒り、中には「比例は共産党だらわかつてるよ。家族にも言っているから」という方もいます。

新しい国政を期待している人に、日本共産党をおおいに訴えています。

## ゆり子の視点

### 8月6日に思う

6日、テレビで広島の平和記念式典を見ました。  
秋葉広島市長の平和宣言や、子ども代表の平和の誓いは、被爆者の思いや平和を願う日本国民の声を世界に発信した内容だったと思います。

秋葉市長は、「(日本政府は)核兵器廃絶運動の旗手として世界をリードすべきです」と述べ、プラハ演説を取り上げて、「それに応えて、私たちにはオバマ大統領を支持し、核兵器廃絶のために活動する責任があります」とキツパリ。国際社会に「核兵器のない世界の実現を」と力強くよびかけました。

一方、麻生首相は、あいさつで非核三原則の堅持や核兵器廃絶と恒久平和を口にしましたが、非常に空虚に響きました。その気がないことがわかるようなあいさつでした。記者会見で首相は、「米国の核の傘が必要だ」と語っています。「核抑止」は核兵器で他国を威圧するという考えで、核兵器廃絶と両立しません。被爆国・日本として、堂々と核兵器廃絶を世界に訴え、またその実現のために働く政府をつくっていかねばならないと思ってきました。

9日にはその思いを込めて、原水協や「9条の会」の方々の街頭宣伝署名行動に参加させてもらいました。